

安来高校植物図鑑（2022年8月）



和名: ハナハマセンブリ（花浜千振）

昨年から蕾は見かけていて何の花かわからなかったのですが、やっと咲いた姿に出会うことができました。ピンク色が派手な感じがします。この花は近年日本に入ってきた外来種だそうで、あまり図鑑に載っていません。図鑑に載っていないと様々な情報が錯綜するということであり、インターネットで見るとハナハマ(花浜)センブリとハマハナ(浜花)センブリという名前が混在しています。いったいどちらが正しいのかわからない状態です。

小さい個体がたくさんあったので、これから安来高校でも広がっていくのかもしれませんが。外来種は本当にあっという間に広がるので。

和名: イヌガラシ（犬芥子）

花がそっくりなイヌガラシとスカシタゴボウという植物があります。これらは葉の形や実の付き方で見分けます。一応両方とも確認しまして、イヌガラシだろうと推定しました。イヌという言葉が最初につくと「役に立たない」という意味だと以前紹介しました。イヌガラシの場合は、カラシナ(芥子菜)に似ているけれども、芥子としては使えない、という意味があるようです。カラシナは葉を食べるとピリッとした辛味があり、種子を粉末にすると和芥子になるのだとか。イヌガラシは役立たずなのですね。寂しそうに第2体育館の横でひっそりと咲いていました。



和名: エノコログサ（狗尾草）

猫じゃらしとして有名です。犬の尾に似ているので「犬ころ草」と呼ばれ、その言葉が変化してエノコログサになったのではないかとされています。漢字名の「狗」は犬のことです。ということは猫は犬の尾に飛びつくの？猫と犬と一緒に飼っている方、教えてください。この植物は子どもの頃に手で握って遊びました。ふわふわとした感触は今でもよく覚えています。左写真のように直立して小さめなのはエノコログサ、右写真のように穂が大きくて垂れ



下がるのはアキノエノコログサと言います。雑穀の仲間なので、火であぶるとポップコーンのように弾けるそうですよ。



また言いますが、安来高校は本当にカエルが多いです。先日仕事を終えて帰ろうと、雨上がりの夕方に職員玄関から外に出たら、ガラス戸と足下になんと合計12匹のアマガエルがいました。つい、数えてしまいました。左の写真は校内にある排水溝で見かけたカエルです。背中に1本の筋があるということはトノサマガエルかダルマガエルだと思うのですが、相変わらず詳しくないので見分けられません。